

記載例(堆肥の施用)

この緑の枠で囲んだ箇所を記載してください

(参考様式第1-1号)生産記録

(炭素貯留効果の高い堆肥の水質保全に資する施用の取組)

組織名	雲南エコファーム
氏名	雲南 太郎

圃場名	実施面積	作物名(5割低減)
キスキ1	10a	つや姫
キスキ2	20a	

1 堆肥の施用

堆肥の名称(種類)	C/N比	堆肥施用量(kg/10a)	堆肥施用時期(注)	備考(注)
例)完熟堆肥	30	1500kg	令和6年11月下旬(見込み)	水稻

(注)主作物(5割低減取組)後の施用の場合は、施用後に栽培する作物名を備考欄に記入すること。

・配布した実施区画を参考に原則圃場ごとに生産記録をまとめてください

・ただし、同じ取組、同じ栽培方式、同じ作物ならば、別々の圃場でも一枚の生産記録にまとめて良いです

2 5割低減の取組

(1)作業工程

作業名	実施時期	備考
播種	令和6年〇月上旬	
定植	令和6年〇月下旬	
収穫終了日	令和6年△月△日	

・作業ごとの実施時期を記載してください

・下旬中旬などや、〇月〇日～■月■日等の記載でも構いません

ここでは、使用された化学肥料が基準値以下であるか確認します

・施用した1で記載した堆肥以外のすべて肥料の正式名称及び窒素成分の割合、使用時期、使用量を記載してください

(2)使用肥料(1の堆肥以外)

資材等の名称	化学肥料 窒素成分 の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学 肥料窒素 成分量 (kgN/10a) (A)	慣行の 5割低減 の水準 (kgN/10a) (B)	備考
〇〇化成	8	令和6年11月上旬	30	2.4		
合計				2.4	4.0	

窒素成分量の計算の仕方

窒素成分の割合×使用量

例)
 $30\text{kg}/10\text{a} \times 8\% = 2.4\text{kgN}/10\text{a}$

(3)使用農薬

農薬名 (剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薬 成分回数 (C)	慣行の5割低減 の水準 (成分回数) (D)	備考
〇〇殺虫剤	令和6年〇月上旬	2		
〇〇殺菌剤	令和6年〇月上旬	1		
口口殺菌剤	令和6年〇月下旬	2		
△△殺虫剤	令和6年〇月下旬	2		
口口(生物農薬)	令和6年〇月上旬	-		
合計		7	10	

(注1) フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入すること。

(注2) (C)の合計 ≤ (D)の値となっているか確認すること。

成分回数の計算の仕方
農薬が含む有効成分の数×散布回数

例)
殺虫剤(2成分)×散布1回=2
殺菌剤(1成分)×散布1回=1
殺菌剤(2成分)×散布1回=2
殺虫剤(2成分)×散布1回=2

3 保管書類

施肥管理計画

土壌診断結果書類

堆肥の購入伝票等(※)

堆肥の成分証明書等

主作物の出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

※ 堆肥を譲り受ける場合はその証拠書類(伝票、取引書類等)、自給堆肥の場合は堆肥原料、その量、堆肥製造期間、堆肥製造場所、製造した堆肥の量等を記載した書類を保管すること。

(注)保管してある書類名の□に、■または✓を入れること。

送付資料の「特別栽培農産物に係る表示ガイドラインに基づく慣行レベル一覧表」を参考に農薬使用回数、化学農薬窒素成分量を確認し、ご提出ください